

石狩浜アクションプラン（概要版）

<経緯>

石狩浜は、ハマナスに代表される海浜植物群落、カシワの天然生海岸林など、砂浜から海岸林まで、連続した海浜生態系が維持され、生物多様性の保全において非常に重要な地域です。

石狩市では、2000年に石狩浜海浜植物保護センターを開設し、海浜植物等保護地区の拡大など石狩浜の自然環境の保護・保全を進めてきましたが、近年、内陸性植物や外来植物の増加に伴う海浜植物群落の衰退、レジャー利用による海浜生態系への影響や人為的な海浜地の改変による生物多様性の損失など懸念があります。

そこで、石狩浜の生物多様性保全に向け、第3次環境基本計画の施策方針に基づき、課題を整理し、2040年までの目指す姿と7つのゾーン目標を設定し、目標へ向けた行動計画を示す石狩浜アクションプランを策定します。これは、いしかり生きものかけはしビジョン（令和6年3月策定）に基づき、生物多様性の保全上重要な地域において定めるアクションプランとなります。



ハマナス



カシワ



テンキグサやハマボウフウが広がる海側の砂丘



ハマナス群落



海側の砂丘と陸側の砂丘の中間部分に広がる、海岸草原



海岸草原とカシワ林の境界



カシワの天然生海岸林



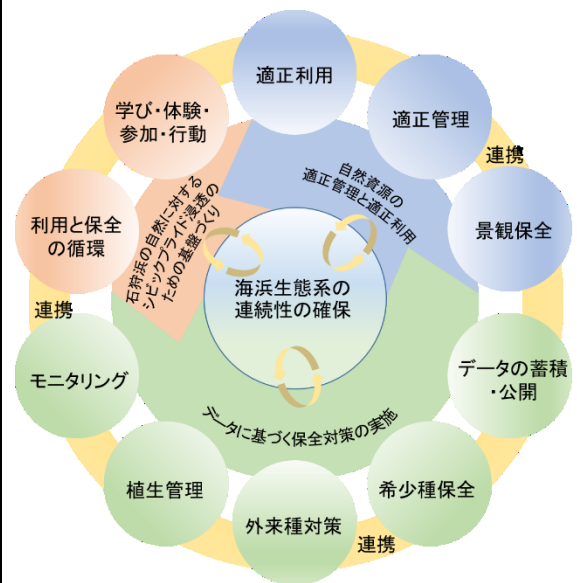
石狩川河口左岸の砂嘴の一部に広がる湿原

<基本理念>

「海浜生態系の連続性の確保」

<2040年までの行動目標>

<目指す姿> データに基づく保全対策
1) 植生遷移をモニタリングし、生態系の変化を把握する。
2) 植生管理により、海浜植物群落を維持、再生する。
3) 外来種が、海浜生態系に及ぼす影響を最小限にとどめる。
4) 石狩浜の海浜生態系における希少種の現状の生息、生育状況を維持する。 ※絶滅危惧指定種だけでなく、縮小が懸念される群落等も含む。
5) 海浜生態系に関するデータを整理し、公開、発信する。
<目指す姿> 自然資源の適正管理と適正利用
6) ハマボウフウの生育状況把握を進め、状況に応じた管理を行う。
7) 景観保全のための植生管理により、観光利用と生態系保全を両立させる。
8) 海浜地の適正利用と、海浜生態系の保全を両立させる。
<目指す姿> 石狩浜の自然に対するシビックプライド浸透のための基盤づくり
9) 学び・自然体験活動・参加型保全活動の実施体制を強化する。
10) 自然資源の保全と持続可能な利用との両立を図る。



石狩浜アクションプランにおける目指す姿の関係性